

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年10月29日

【評価実施概要】

事業所番号	3770103301
法人名	有限会社完土
事業所名	グループホーム実の里
所在地	香川県高松市十川東町938-1 (電話) 087-848-5155

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成19年7月20日	評価決定日	平成19年10月29日

【情報提供票より】(19年6月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 16年 9月 1日
ユニット数	2ユニット 利用定員数計 18人
職員数	18人 常勤 9人、非常勤 9人、常勤換算 16.5人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り 1階建ての1階部分
------	-------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000円	その他の経費(月額)	600円
敷金	有()円	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 100円
または1日当たり 1,200円			

(4) 利用者の概要(6月20日現在)

利用者人数	15名	男性 4名	女性 11名
要介護1	9名	要介護2	4名
要介護3	2名	要介護4	0名
要介護5	0名	要支援2	0名
年齢	平均 82歳	最低 65歳	最高 91歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	ミタニ藤田病院、松の内歯科
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

入居者が落ち着いて生活できるように、屋外では畑・庭・テラス・洗濯干し場等が整備されており、屋内では、段差のない畳間・リビングの観葉植物等、様々なところに工夫がされている。また、外出・受診先・趣味活動等で、利用者の個別性や要望に沿うケアが実践されている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回の外部評価終了後、職員会議で話し合い、ホーム便りの作成・入居者の希望にあわせた外出機会・職員の休憩時間等への取り組みを行い、改善に結びつけている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価作成に当たり、職員会議で自己評価の意義等を話し合っている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 近況報告や広報誌の作成検討等の改善点について、討議がされている。開設して2年と運営期間が短く、地域との結びつきが主要課題であることを自らが自覚し、方策を模索している。会議に参加している地域の代表者との連携を強化し、更なる活動の広がりに期待したい。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族からの苦情等に対して、職員会議で話し合い、改善へとつなげている。また、家族会の参加が少ないことが課題となっており、参加促進への対応に期待したい。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 秋祭りや敬老会等での交流や散歩、農作業時の挨拶等はあるが、頻回な交流は少ない。交流へのアプローチや自治会での説明会開催を企画する等、連携強化への対策は講じている。地域のボランティアの活用やホーム便りの地域配布等により、更なる地域との連携の強化に期待したい。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	安全性の確保や笑顔の強調、自然とのふれあい等、事業所独自の想いが盛り込まれている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内に分かりやすく掲示されており、職員は毎朝唱和している。また、畑・庭の整備や段差のない空間等の環境整備や、日常のケアの場面では笑顔での対応等で、理念が浸透していることがうかがえる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	秋祭りや敬老会等での交流や散歩、農作業時の挨拶等はあるが、頻回な交流は少ない。ホーム自らも主要課題と位置づけて、交流へのアプローチや自治会での説明会開催等を企画する等、努力している。	○	運営推進会議にも参加してくれている民生委員等との連携を密にするとともに、ホーム便りの地域配布や地域ボランティアを活用する等、更なる努力に期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価終了後、職員会議で話し合い、ホーム便りの作成・入居者の希望にあわせた外出機会・職員の休憩時間等への取り組みを行い、改善に結びつけている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	近況報告や広報誌の作成検討等の改善点について、討議がされている。開設して2年と運営期間が短く、地域との結びつきが主要課題であることを自覚し、方策を模索している。	○	会議内容に苦情対応や事故報告等の開示を入れるとともに、会議に参加している地域の代表者との連携を強化し、更なる活動の広がりに期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議において、市職員や地域包括支援センター職員が参加し、積極的に交流しており、電話での相談等は随時行っているが、訪ねていく機会はない。</p>	○	<p>今後も、より一層、市町や地域包括支援センター等との深い関係づくりを積極的に行い、市町等にホームの考え方や実態をよく知ってもらい、ともに課題解決を図っていく取り組みに期待したい。</p>
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>月1回の近況報告、金銭管理報告、受診報告ができています。急な受診は、電話で、その都度の確認、報告ができており、面会時にも報告がされている。</p>		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族からの苦情等に対して、職員会議で話し合い、改善へとつなげている。日々の面会時や年1回の家族会・家族参加の行事を通じ、意見を聴取している。</p>	○	<p>家族会の参加が少ないことが課題になっており、参加促進への対応に期待したい。また、苦情や要望の開示が望まれる。</p>
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動は、必要最小限度に抑えるように努力している。諸事情により、異動が必要となった場合には、入居者・家族に、その都度説明している。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>社会福祉協議会主催や、グループホーム協議会主催の研修に積極的に参加している。また、月1回ホーム内研修も実施し、即対応が求められるような状況では、朝礼を活用し、周知して質の向上に努めている。</p>		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協議会主催の研修で交流を図るとともに、地域の特別養護老人ホームや市内のグループホームとの交流企画を実施し、取り組んでいる。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に体験利用を実施し、入居予定者本人が馴染めるよう工夫し、かつ、事前訪問にて入居者の状態把握に努めることにより、職員が入居者をサポートできるように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者に笑顔で過ごしていただけるよう努力し、本人のペースに合わせた支援を行うことによって、寄り添うケアが実践されている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	外出・受診先・趣味活動等を聞き取り、支援につなげている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアプランにも本人の言葉をそのまま記載し、より明確な支援方針に基づいた支援が行えている。また、主治医や関係者との話し合いが、適切にできている。	○	せっかく話し合った内容が、記録に残っていない部分があるので、記録を残すことが望まれる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しだけでなく、必要に応じた計画の見直しができている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	散歩・買い物・外食・美容院・受診等の外出は個別に対応し、夜間入浴等の要望にも対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族が希望するかかりつけ医に受診しており、職員が付き添うことにより、医師との連携を保っている。また、常に診療所に受診をしている場合は、緊急時にも近隣の病院に受け入れてもらえるように連携を取っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に同意を得た上で、その都度、話し合っていく体制を整えている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入室時には必ず声をかけ、対応するとともに、浴室やトイレにも配慮がされている。また、記録は適切に保管するとともに、廃棄の際は、シュレッダーを使用している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	外出は個別に対応しており、夜間入浴は、希望により実施している。入居者のペースにあわせた配慮がなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に調理したり、準備をしたりして、楽しみになるような配慮をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	シャワーチェアや浴槽内イス等の福祉用具を活用し、個別性への支援を行うとともに、時間帯も要望を聞き、夜間入浴も個別に対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	園芸・書道・手作りおやつ・折り紙・手芸・オルガン演奏等、入居者一人ひとりの生活歴・趣味にあわせた対応をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩・園芸・買い物等の外出には、個別に対応している。買い物では食料品だけでなく、苗を購入しに行く等の対応もしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけないために、玄関チャイムを設置するとともに、当日の服装チェックや十分な見守りを行っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消火器・熱感知器による自動通報システム等を備え、定期的な避難訓練を行っている。また、井戸水の水質検査を実施する等の配慮も行っている。	○	現在、マニュアルを整備中であり、早期の整備が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	糖尿病や塩分制限の方への配慮や、摂取量の把握に努めている。おかゆやキザミ食への対応も行えている。	○	市町所属の栄養士や、病院の栄養士からアドバイスをもらったり、入居者がメニューを把握できるような取り組みに期待したい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やリビング、廊下に、花や観葉植物等を置き、壁面の装飾も落ち着いた雰囲気によって、高齢者の生活の場を作り出している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた家具や電気製品が持ち込まれ、写真や手芸の作品が飾られていたり、入居者の生活の場としての工夫がされている。		